

## 1. 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所番号	4070001286
法人名	社会福祉法人 みのり会
事業所名	グループホーム 照日ヶ丘
所在地 (電話番号)	福岡県築上郡上毛町安雲585番地44 (電話) 0979 - 84 - 8080

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年5月13日

【情報提供票より】(平成21年3月7日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	15人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.8人

#### (2) 建物概要

建物構造	耐火建築造り
	1階建ての1階部分

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000円	その他の経費(月額)	(光熱費)9,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
または1日当たり		1,200円		

#### (4) 利用者の概要(3月7日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	8名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	64歳	最高	97歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たかの内科 / 消火器科クリニック / 大川病院 / 筒井歯科
---------	---------------------------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム照日ヶ丘は、のどかな田園地帯が広がる自然豊かな環境に立地している。昭和63年に開設された介護老人福祉施設安雲拓心苑のグループホームとして、地域に根づいた運営を行っている。敷地内の広大な芝生の庭には、バーベキューなどができる東屋もあり、家族や地域の方々との憩い・交流の場として活用されている。食事はメニューが選択できるように工夫がされており、「普通の暮らし」を送ることができるように支援している。長年高齢者ケア現場での勤務経験がある職員が多く、入居者の重度化にも対応しながら、できる限りこのホームにいたいという入居者及び家族の希望をかなえていくことを目的に、日々のケアやサービスに努めている。入居者一人ひとりの状態変化などに対応するために、各居室にナースコールがあり、1ユニット3人の職員が専用の携帯を持ち安全面の配慮を徹底している。

### 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、「運営推進会議の定期的な開催」「金銭納付や生活状況など家族への報告」「重度化へ向けての方針」が指摘されていたが、評価結果を話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員は、外部評価の意義を理解し、日々のケアやサービス提供を振り返り、自己評価を作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、昨年度は3回の開催となっている。会議は家族の意見を聴く機会としてもとらえ、食事の試食会を開催したり、ホームの現状報告・事業計画など幅広いテーマで話し合いを行っている。会議で出された意見や要望はケアやサービス提供の中で活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会が多く、面会時には、積極的に家族とのコミュニケーションを図り、何でも話していただけるような雰囲気づくりに努めている。出された意見は、職員で話し合い、その原因を探り改善に向けて取り組んでいる。今後は、家族との交流の充実を図り、もっと意見などを言ってもらえる仕組みを検討したいと考えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの庭が芝生で広く、子ども達がサッカーを楽しみに来訪し、入居者にとっても憩いの時間となっている。保育園・小学校の運動会や地域行事である上毛町の祭り・敬老会など、地域との交流・ふれあいに努めている。今後は、在宅介護支援センターと連携し、介護教室や老人会への参加など、地域にとけ込む取り組みを行っていきたいと考えている。

2. 評価結果(詳細)

(   部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	基本理念として6つの柱を掲げ、その中に地域密着型サービスの役割を果たしていこうとする内容「地域にとけこんだ施設、地域との交流が図れる施設とする」があり、入居者が主人公のホームづくり・家庭で普通の生活の継続など、これまでの暮らしを尊重したケアやサービス提供を行うことを掲げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	6つの基本理念を職員にわかりやすく伝えるために、理念の言葉を日々のケアやサービスの中で、具体的な場面に置き換え、理念の目指すところを明確に示している。職員には、その理念の具体的な内容を示す文書を配布し、話し合う機会を持ち、理念の共有化を図っている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	ホームの庭が芝生で広く、子ども達がサッカーを楽しみに来訪し、入居者にとっても憩いの時間となっている。保育園・小学校の運動会や地域行事である上毛町の祭り・敬老会など、地域との交流・ふれあいに努めている。今後は、在宅介護支援センターと連携し、介護教室や老人会の参加など、地域にだけ頼む取り組みを行っていきいたいと考えている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者・職員は、外部評価の意義を理解し、前回の内容について話し合い、改善に向けて取り組んでいる。自己評価も、日々のケアやサービス提供を振り返り作成している。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、昨年度は3回の開催となっている。会議は家族の意見を聴く機会としてとらえ、食事の試食会を開催したり、ホームの現状報告・事業計画など幅広いテーマで話し合いを行っている。会議で出された意見や要望はケアやサービス提供の中で活かしている。		食事の試食会や、他事業所への見学を予定するなど、運営推進会議の内容に充実がみられる。今後は2ヶ月に1回の定期開催に向けての取り組みに期待します。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	法人は上毛町から委託を受け、在宅介護支援センターを運営している。地域の在宅福祉を支える中核機能として、在宅の高齢者を訪問し各種相談を受けている。行政の担当者とは、いつでも相談や情報交換などを行う関係を築いている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	制度を利用している入居者がおり、管理者は職員が理解できるように権利擁護のパンフレットをファイル化し、職員の制度の理解を育てている。今後は入居者や家族に、制度の活用について情報提供できるように取り組むことが期待される。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	家族の面会が多く、一人ひとりの個別の生活・健康状態・エピソードなどを報告している。遠方で面会に来ることが難しい家族には、4ヶ月に1回、金銭管理の通帳のコピーを郵送し、報告している。今後は、金銭出納の定期的な報告と共に、ホーム便りの作成など家族への報告の充実を期待したい。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	面会時には、積極的に家族とのコミュニケーションを図り、何でも話していただけるような雰囲気づくりに努めている。出された意見は、職員で話し合い、その原因を探り改善に向けて取り組んでいる。今後は、家族との交流の充実に努め、もっと意見などが聴ける仕組みを検討したいと考えている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	入居者と職員のなじみの関係に配慮し、各ユニットの職員を固定化している。また、離職の際には、職員の引継ぎに配慮すると共に管理者がサポートをするなど、入居者のダメージを防ぐために支援する体制を整えている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員採用・募集は、性別・年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。法人の全体会議には職員も極力参加できるように取り組み、研修の案内があれば職員に意向を確認し、研修受講ができるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	毎月、法人で全体会があり、その中でプライバシー保護・心理的ケア・倫理・法令遵守・認知症などについて研修があり、入居者の人権について学ぶ機会がある。また、管理者は職員に人権の研修受講をすすめ、日々のケアの中でも人権に対する意識を高めるために話し合う機会をつくっている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	外部の研修として、福岡県グループホーム協議会・福岡県老人福祉施設協議会などの職員研修に参加できるように取り組んでいる。また、職員の日々の努力を評価するために職能評価を行い、職員のスキルアップを図っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同業者との交流は他のグループホームと情報交換を行い、質の向上に努めている。平成21年度は大牟田市のグループホームの見学を申し入れており、ソフト面の交流を検討している。地域の認知症ケアの理解を高めていくためにも、地域におけるグループホームとの交流を図り、ネットワーク化を図っていくことが期待される。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	本人・家族の見学を行い、不安がある場合は職員が送迎を行い、遊びに来ていただくことを繰り返しながら、徐々なじんでいただくように努めている。十分な関係を繰り返しながら、入居者の気持ちの安定を見極め、入居できるように取り組んでいる。体験宿泊も可能である。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	全職員は「入居者は人生の大先輩である」を常に意識し、入居者の生活分野や得意分野(犬の散歩・畑・菜園づくり・庭の水やり・食器拭き・食材の皮むき・生け花など)を引き出せる機会を設け、学び支えあう関係を築いている。月5回のおやつづくりも楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者・家族からの情報を聴き取り、本人の意向や希望を把握している。墓参りなど本人の意向にそって支援しているが、今後は日々の職員の気づきを記録し分析しながら、入居者の思いや意向を掘り下げていくことが求められる。		入居者の生活歴や生育歴を更に把握し、日々の職員の気づきをメモなどに記録し、入居者の全体像をとらえ、思いや意向を把握し支援していくことが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	家族・看護師・栄養士の意見を聴き、検討後に可能なかぎり、本人の意向を反映した介護計画の作成に取り組む努力をしている。		フェイスシートの書類の整理を行い、入居者の情報の記録を更新していくなど、入居者の全体像をつかむことが求められ、職員の日々の気づきによるアイデアなども取り入れ、介護計画に反映していくことが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	基本的には6ヵ月毎の介護計画の見直しを行っている。状態変化の際には関係者と協議し見直しを行っている。短期目標の評価のため、3ヶ月に1回、評価の見直しが必要である。また、モニタリングの際の日々のサービス実施記録が求められる。		6ヶ月毎の介護計画の見直しを行っているが、短期目標は3ヶ月毎が望ましい。個々の状況記録表が寮母日誌となっているが、職員の業務も多角化してきており、現在の職員の役割に対応する職員の呼称などの検討が望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	同法人のデイサービスや介護老人福祉施設を訪問し、行事に参加するなど楽しみごとの機会が多い。デイ施設の車を利用し、外出を支援している。また、自宅帰宅やお墓参り、早期退院を支援している。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
21	45	かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望を大切に、基本的には在宅からのかかりつけ医への受診を尊重し支援している。かかりつけ医は月2回往診があり、歯科医の往診もある。状態変化を含め、必要に応じていつでも診療が受けられる体制を整えている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期の対応については、可能な限り取り組めるように研修を行い、知識習得に努めている。現在、マニュアルを作成中である。医療連携加算により看取りの方針を作成することが求められる。		同法人の介護老人福祉施設の終末期ケアの介護マニュアルを参考にマニュアルを検討している。今後、医療連携加算により、看取りの方針を定めることが求められ、協力医療機関や家族と話し合い書類整備を期待したい。
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりのプライドを尊重した言葉づかいを、心がけている。また、記録など個人情報の取り扱いには、事務室に鍵付きの書棚があり保管している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	朝食は個別に入居者が起きてきた状況に合わせ食事ができるように取り組み、また毎食入居者が一品は選択できるなど、希望や意向を大切にしたケアやサービス提供に取り組んでいる。職員は、法人の理念である「入居者が主人公」という考えを日々の暮らしの中で実践し、本人のペースを大切にしながら支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	法人の施設の栄養士による献立により食事は施設から届き、入居者は盛り付け・配膳を行っている。温かい物は温かく、冷たい物は冷たく提供できるように配慮している。食欲の低下がみられる入居者には、看護師・栄養士と相談しながら食事が摂れるように工夫している。食べる楽しみとしては月5回、入居者と職員がおやつづくりを行っている。職員は弁当を持参しており、一緒にテーブルを囲み、楽しく食事ができるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者のその日の体調と希望を確認しながら、心の交流の場として、ゆっくり入浴を楽しんでいただくように支援している。入浴を拒否する方には声かけを工夫しながら、週2回は清潔保持のため、入浴していただけるように取り組んでいる。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	入居者の個々の能力を活かし、畑での野菜づくり・ベランダでの洗濯物干しと取り込み・習字や生け花・お経を唱えるなど、入居者のできることをやっていたりしている。食事も大きな楽しみとして、ピヤガーデン・うどん・ラーメンなど個別に支援している。晩酌を楽しみにしている方もおられる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	体調や気分に応じて散歩・買物・外食に出かけている。天気が良い日は、弁当持参でのドライブなど取り組んでいる。また、ホームの芝生広場では夏にソーメン流しやレクリエーションを楽しんでいただけるように支援をしている。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	玄関はタッチ式の自動ドアで対応しており、日中は施錠は行っていない。職員は鍵をかける弊害を理解しており、行動が落ち着かない入居者には、職員がそっと見守りを行い安全面に配慮している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	法人の総合防災訓練を年2回開催し、避難訓練・消火訓練などに取り組んでいる。その際に避難場所の確認などを行っている。また、照日台団地の集会に参加し、協力依頼を行っている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	職員は食事量・水分摂取量の重要性を理解しており、栄養士・看護師と相談しながら、食事の一品を毎食ごとに選んでいただき食欲増進を図っている。例えば、朝食はパンかご飯か、夕飯はメインを魚か肉にするかなど工夫している。治療食も可能である。水分摂取量は、1日の必要量を飲んでいただくために飲み物の種類を多く準備している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
など					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は広大な中庭に面しており、明るく清潔で広くゆったりとした造りとなっている。天井は吹き抜けで間接照明など工夫されている。畳のコーナーもあり、掘り炬燵でゆっくりくつろげる配慮がある。また、季節の花が活けられ、台所からは家庭の匂いが五感を刺激し、生活感と季節感を感じる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入口は設計が工夫され、プライバシーに配慮した造りとなっている。各ユニットに3つ、フローリングと畳を合わせた部屋があり、入居者の思い思いの品物が持ち込まれていた。居室は広い芝生広場に面しており、直接中庭へ出ることができる部屋もある。玄関には、個別に木製の樹木の名前の表札があり、入居者一人ひとりを大切にしたいという気持ちが込められている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			